

平成31年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・(数学)／(英語)に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。(英語・理科は、3年に1度の調査となります。)

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・全体的に見て、国語、算数とも県平均をやや上回っている結果が得られました。
- ・国語では、話し手の意図を捉えながら聞き、そこから自分の考えをまとめることや、漢字を文の中で正しく使うことにこれまでの学習の成果が表れており、県や国の平均を上回っています。一方図表やグラフなどを用いた文章から、その図表やグラフを用いた目的を捉えることや、ことわざの意味を正しく理解して、自分の表現に用いることに課題が見られました。
- ・算数では、図形や数量関係の領域でよい成果が表れています。特に加法と乗法の混合した整数と小数の計算において、とても良い結果が得られています。また、県や全国の平均に比べ、自分の考えを記述しながら説明していく問題において、素晴らしい成果が表れています。一方、グラフから数量の変化の様子を「倍」という観点で読み取ることに課題が見られました。

■質問紙調査から見える本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
県の平均に比べてほとんどの項目でよい傾向がみとめられました。特に「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」などで高い数値を示しています。また、授業中での「話し合い活動」やノートづくり、算数の学習への意欲が高いことがうかがえます。
- ・課題となる項目
家庭学習の時間は、県の平均に比べそれほど劣っているというわけではありませんが、2時間以上の学習時間を確保している児童の割合が低い状況にあります。また、学校図書室や地域の図書館の使用について、比較的低い傾向にあります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語、算数とも図表やグラフから特徴を捉えていくことに課題があることがわかります。より一層授業の中に対話的で協働的な学習活動を組み入れ、児童が様々な考え方に触れたり、自分の考えを他の人に伝えたりする中で、論理的な考えを構築させる学習を取り入れていきます。また、総合的な学習の時間、社会科、理科などの他教科との関連を十分持たせながらの授業づくりに取り組んでいきます。
- ・すべての教科において、学習規律、ノートのとり方の指導、自分の考えを数直線や文、式などを使って分かりやすく記述すること、問題解決型学習やプログラミング学習に引き続き取り組んでいきます。
- ・計算や漢字、ことわざなどの基本的な学力の向上に向けての取組を引き続き行っていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」も活用し、児童が自らの学習に自主的に取り組めるよう、引き続き温かいご支援をお願いいたします。
- ・親子で読書の時間をとって、児童と一緒に「家読」に取り組むなどし、本に慣れ親しませてください。
- ・ゲームやスマートフォン、携帯電話等の使用時間を再確認し、時間のルールを守らせるようにしてください。
- ・地域や社会で起きている問題や出来事を知り、自分の考えが持てるように、親子で一緒にニュースを見たり新聞を読んだりし、家庭の中で話題にしていこうようにしてください。